

受験番号

2021年度

神戸国際中学校 A－Ⅱ選考

国語

(2021年1月16日実施、25分、50点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

1 ことばというのは、世界を①カテゴリーに分ける。(言語学では「範疇」という用語を用いるが、本書では、より一般的な「カテゴリー」という語を使うことにする。とりあえずここでは、カテゴリーとは同じ種類のモノの集まりである、と定義しておく。ただし「同じ種類」とは何かというのは、これまたたいへん難しい問題である。②この問題については、本書の※随所でこれから触れていく。)例外は固有名詞で、固有名詞はカテゴリーではなく、個人、個体の名前である。

2 ここであちよつと寄り道をして、③すべてのことばが固有名詞だったかどうか、ということを考えてみよう。すると、「ネコ」とか「ウサギ」などのことばはなくなり、「ポチ」「たま」「ミケ」「タロー」など、一つひとつの個体を指すことばしか残らない。つまり、ネコの「ミケ」も、ウサギの「ミッフィー」もすべて同じようにあつかわれ、個体としての区別しなくなってしまうということなのだ。このような事態を考えると、カテゴリーを指すことば、つまり「ネコ」や「ウサギ」のようなことばがいかに大事であるかがわかる。

3 「ネコ」「ウサギ」「リンゴ」などのことばは「同じ種類のモノの集まり」であるカテゴリーを指す。個体の名前だけでなく、カテゴリーの名前を持つことの利点は何か。それは④個体のレベルでの無数の特徴——例えば、この個体はしっぽがちよつと短い、毛にぶちがある、太っている、

耳が片方たれている、などの特徴——で区別するのではなく、無限に存在する個体を意味があるまとまりとしてまとめ、「同じモノ」に共通の特徴のみを問題にして、世界を整理していけることである。

4 あ、「カテゴリー」というと、一般的には「モノのカテゴリー」のことだけを考えがちである。い、ことばが指し示すカテゴリーはモノに限らない。例えば、人が行う動作は無限にある。その中で、私たちは「走る」、「歩く」、「跳ぶ」、「運ぶ」、「担ぐ」、「置く」、「入れる」など、さまざまな動作がある意味の基準に従ってくり、カテゴリーをつくって、それに動詞というラベルをつけているのだ。う、さまざまな状況で行われる、無限に存在する動作を、動詞によってカテゴリー化し、整理しているわけである。

5 次に、モノとモノとの空間の位置関係を、ことばがどのように表現するか、あらためて考えてみよう。ここでもまた、⑤無限に存在するモノ同士の空間上の位置関係を、ことばがカテゴリーにまとめ、整理しているということがわかる。

6 モノAがモノBの「前にある」「後ろにある」「横にある」「左(右)にある」「上にある」「下にある」「中にある」などの表現を考えてみよう。ここにおいて、モノA、モノBは何でもよい。人でも、動物でも、家具でも、道具でもかまわない。二つのモノが置かれている場所も、どこでもよい。前記の表現では、二つのモノの間の距離も関係ない。つまり、言語は三次元空間上に無限に存在する二つのモノの位置関係を、非常に限られた数の「位置関係のカテゴリー」に区分けし、整理しているのである。

7 ここに※素朴な疑問がわいてくる。私たちが「見ている」世界は、ことばが切り分ける世界そのものなのだろうか。それとも、⑥ことばが

切り分ける世界は、私たちが「見ている」世界とは別のものなのだろうか。これは考えて見ると、なかなか深い問題である。

8 世界には非常に多数の言語があり、世界をどのように切り分けていくかは、言語によって大きく異なる。もし私たちがことばを通して世界を「見ている」とすれば——つまり、私たちが見ている世界が、ことばが切り分けている世界そのものであるのなら——、異なる言語を話す人たちは、世界の見方や思考のあり方がずいぶん（あるいはまったく）異なるはずだ。

（今井むつみ 『ことばと思考』）

※随所：いたるところ。あちこち。

※素朴：考え方などが単純なこと。

問1 —①「カテゴリー」とは本文ではどういうことですか。本文中から抜き出さない。

問2 —②「この問題」とありますが、どんなことを指して言っていますか。本文中から十字で抜き出さない。

問3 —③「すべてのことばが固有名詞だったらどうなるのか」とありますが、どうなるのですか。十五字以内で答えなさい。

問4 —④「個体のレベルでの無数の特徴」とありますが、「個体のレベル」ではない「ネコ」の特徴にはどんなものがあるのか、答えなさい。

問5 あ・い・うに入る言葉を次のア〜カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ さて
エ また オ つまり カ さらに

問6 —⑤「無限に存在するモノ同士の空間上の位置関係」とありますが、Ⅱ部分とは違う「位置関係」を「くにある」という形で一つ答えなさい。（Ⅱ部分の語を一部用いてもよい）

問7 —⑥「ことばが切り分ける」とありますが、これはどのようなことですか。3の本文中の語句を用いて六十字以内で答えなさい。

問8 本文中の内容に合致するものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世界は個体の名前をさすことばだけによって分けられるものだ。
イ 「ミケ」も「ミツフィー」も同じ種類のモノに分類される。
ウ 一般的に「カテゴリー」は「モノのカテゴリー」に限られる。
エ 異なる言語を用いる場合、世界の見え方が変わる可能性がある。

一 二次の文の一部のカタカナの言葉を漢字で答えなさい。

- ① キケンな目にあう。
- ② 薬のユウカがあらわれる。
- ③ 兄のセンモンは文学だ。
- ④ シセイを正しくする。
- ⑤ 時間をタンシユクする。
- ⑥ ジョウシキある態度。

三 次の（ ）に動物の名前を入れてことわざを完成させなさい。

- ① （ ）の耳に念仏
- ② （ ）も歩けば棒に当たる
- ③ （ ）に真珠
- ④ （ ）の首に鈴をつける
- ⑤ （ ）も木から落ちる